

2010年2月27日 チリ中部沿岸の地震

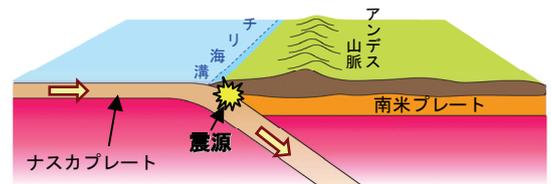
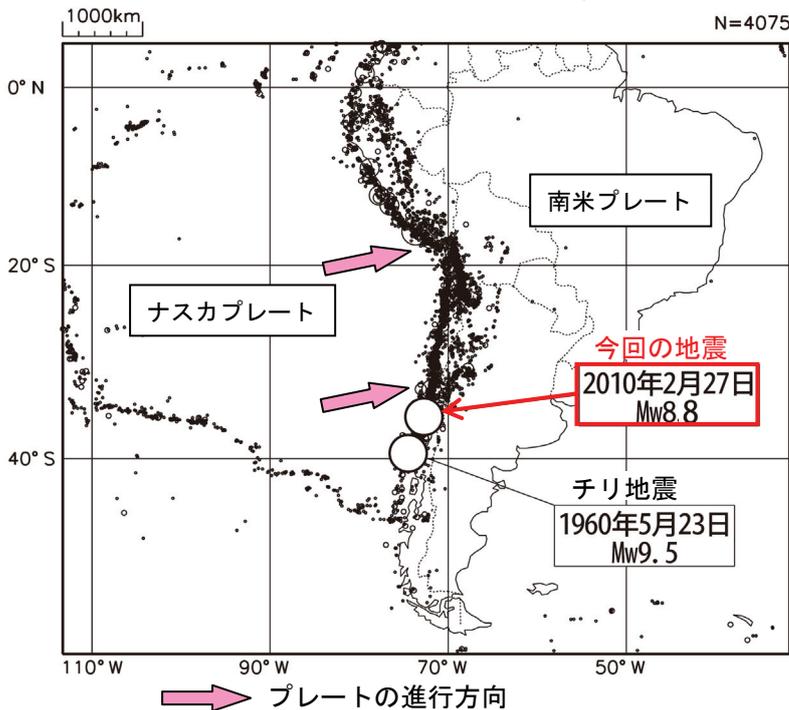
2010年2月27日15時34分（日本時間）、チリ中部沿岸でMw8.8（気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、南米プレートとその下に沈みこむナスカプレートの境界で発生した地震であった。この地震により津波が発生し、震源に近いチリで2mを超える津波を観測するなど、日本を含む太平洋沿岸諸国で津波を観測した。この地震と津波により、チリでは死者528人以上の被害となっている（被害は米国地質調査所 [USGS] による）。

活動は、本震—余震型で推移しており、余震は本震を中心とした南北約600kmの範囲で発生している。

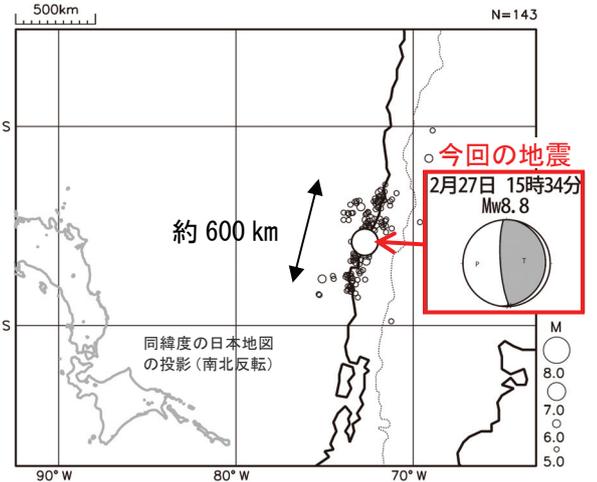
なお、日本国内では翌28日午後からこの地震による津波が観測された。国内の検潮所で観測された最大の高さは久慈港、須崎港（ともに国土交通省港湾局の検潮所）の1.2mであった。

震央分布図（1960年1月1日～2010年2月28日、
深さ0～200km、M≥5.0）

震源は米国地質調査所[USGS]による。
今回の地震のMwは気象庁による。



本震及び余震の分布
(2010年2月27日～3月3日、
深さ0～200km、M≥5.0)
発震機構は気象庁CMT解



震央分布図（1900年1月1日～2010年2月28日、
深さ0～200km、M≥8.0）

震源は宇津の「世界の被害地震の表」及びUSGSによる。
今回の地震のMwは気象庁による。



チリ沿岸を含む南米の西岸は、日本の太平洋沿岸と同じように、海側のプレート（ナスカプレート）が陸側のプレート（南米プレート）の下に沈み込んでいる場所である。そのため、M8.0以上の規模の大きな地震が度々発生しており、今回の地震の震央の南側では、1960年にチリ地震（Mw9.5、過去100年間で最大規模の地震）が発生した。1960年のチリ地震の際に発生した津波は、日本まで到達し死者142人などの大きな被害をもたらした（被害は「最新版日本被害地震総覧」による）。